



毎年4月2日は、各国で国民に自閉症を理解してもらおう取り組みが行われています。

日本では、世界自閉症啓発デーの4月2日から8日までを「発達障害者啓発週間」として設定し、自閉症をはじめとする発達障害について広く啓発するためのシンポジウムが開催されています。

また、「いやし」「希望」「平穏」を表す「青」をシンボルカラーに、各地のランドマークでブルーライトアップなども行われます。

発達障害とは

生まれつきの脳機能の障害で、育て方や本人の怠けが原因ではありません。大人になっても発達障害と診断される場合もあります。複数の障害が重なって現れたり、障害の程度や年齢、生活環境などによって症状は違ってきます。

世界自閉症啓発デー 世界とつながる

主な発達障害

▼自閉症スペクトラム症(ASD)

対人関係やコミュニケーションが苦手、こだわりや感覚過敏・鈍麻、パターン化した行動、興味関心の偏りなどの特性があります。

▼注意欠陥多動性障害(ADHD)

多動・多弁、衝動的、不注意などの特性があります。

▼学習障害(LD)

読む、書く、計算などの特定分野で極端に得意・不得意があります。

周りの理解が大切です

発達障害は障害の特性が分かりにくいというえ、複数の障害が重なって現れることもあるため、周囲の理解不足で誤解を受けやすく、生活のしづらさを感じている場合も少なくありません。

発達障害は、脳機能の障害があ

るだけで診断されるものではなく、環境に適応できなくなつた時に初めて診断されます。周りの理解や置かれた環境で生きやすさが大きく変わります。

発達障害のある方への配慮は多くの方にも役立ちます

例えば「場所の案内に文字だけでなく、写真やイラストなどの視覚的な情報を組み合わせる」という配慮は、発達障害のある方だけでなく、多くの方にも分かりやすいものとなります。

自閉症をはじめとする発達障害を知ること、理解することは、当事者だけでなく、誰もが幸せに暮らすことができる社会の実現につながります。

配慮する内容は、障害特性やそれぞれの場合・状況で異なりますが、特別なことではなく、一人一人の小さな気遣いが求められています。障害のある人もない人も、共に暮らしやすい町にしていきたいでしょう。

発達障害のこと、各種障害者手帳の取得、障害福祉サービスの申請、その他障害福祉に関することは、お気軽にご相談ください。

☎ 福祉課障害福祉班

(84) 1257

地域住民の暮らしを支える民生委員・児童委員を紹介いたします

4月1日付で、厚生労働大臣と千葉県知事から民生委員・児童委員として、2人の方が委嘱されました。

担当地区のみなさんの暮らしを支援する福祉活動にご協力いただきます。福祉に関する悩みごとがありましたら、お気軽にご相談ください。

《敬称略》

担当地区	氏名
立会・南川岸	海保 勝美
入・宮内	鈴木 幸子

民生委員・児童委員の訪問調査にご協力を

町内全域で民生委員・児童委員が次の世帯を訪問し、緊急時の連絡先や民生委員・児童委員による定期訪問の希望の有無について調査を行います。

民生委員・児童委員が訪問した際は、ご協力をお願いします。

対象

- 65歳以上でひとり暮らしの世帯
- 65歳以上の方のみの世帯

☎ 福祉課社会福祉班

(84) 1257